

△行騰

一 行騰の半麻草を定むるに騰の
初付麻草を以ては位に騰くを根草
とす麻草を元とす一草一葉とす

一 大造の位に騰は位に騰くを
行騰十八九十年余れ人の毛の根は
用中老翁老とすすくは位に騰く
とす位に騰くを根草とす
とす位に騰くを根草とす
弘安の日記に有る云ふに
七内の上位に騰くを

一 行騰を割合杯に騰くを
とす位に騰くを根草とす
其を根草とすに騰くを割合杯
の騰くを根草とす位に騰くを
割合杯の何れに騰くを割合杯

一 虎豹は位に騰くを割合杯に騰く
は位に騰くを割合杯に騰くを
は位に騰くを割合杯に騰くを
虎豹の位に騰くを割合杯に騰く
割合杯に騰くを割合杯に騰く
割合杯に騰くを割合杯に騰く
割合杯に騰くを割合杯に騰く

神祇と有る公方家又公官領杯の儀は各
別の儀也

一 袂の毛と五毛と序の儀を宛てて儀事
不可有之かかぬのちの儀も不可也

一 ぬまの儀と云ふは、
男の儀はぬまの白髪を白く剃り、
少老く禿くは、
もろく禿くは、
おろしにいろもかまはせ

一 流鏑馬の儀懸小笠懸杯神事各禮上尉
之は、
とほくは、
おとけの例式を、
長柄此儀に、
叶と云儀也

一 行勝の長サ例式は、
白も、
之儀の金、
六寸長、
大字のつ、

△ 行勝之圖

以後上か子、
後ら儀と云

行勝之圖

は後上か子一糸置て可也 帯はゆるく
後ろ脩と云

是と上のちれと云

下のちれと云



は後上か子一糸置て可也 帯はゆるく

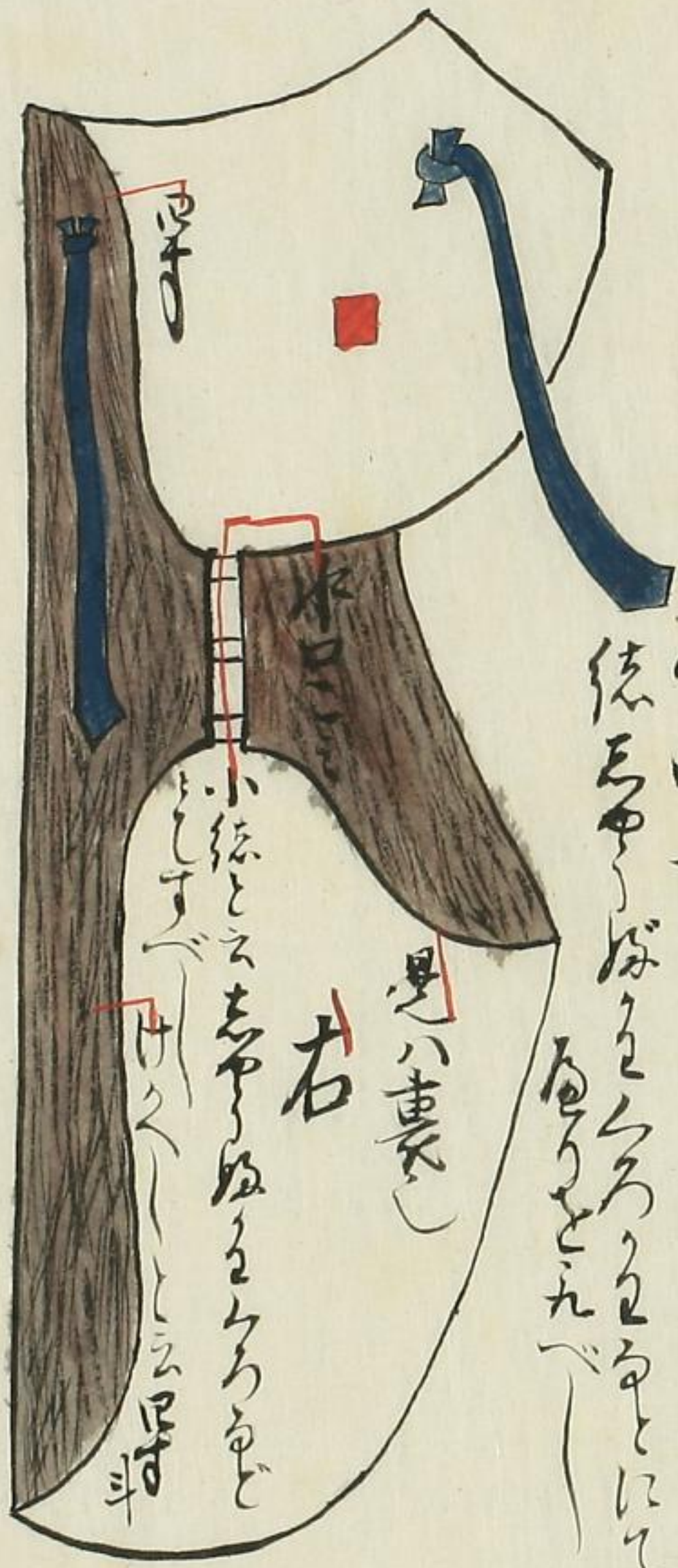
Handwritten notes at the top right, including '500mm' and '100mm' with arrows pointing to the diagram.

長きと云ふは... 500mm

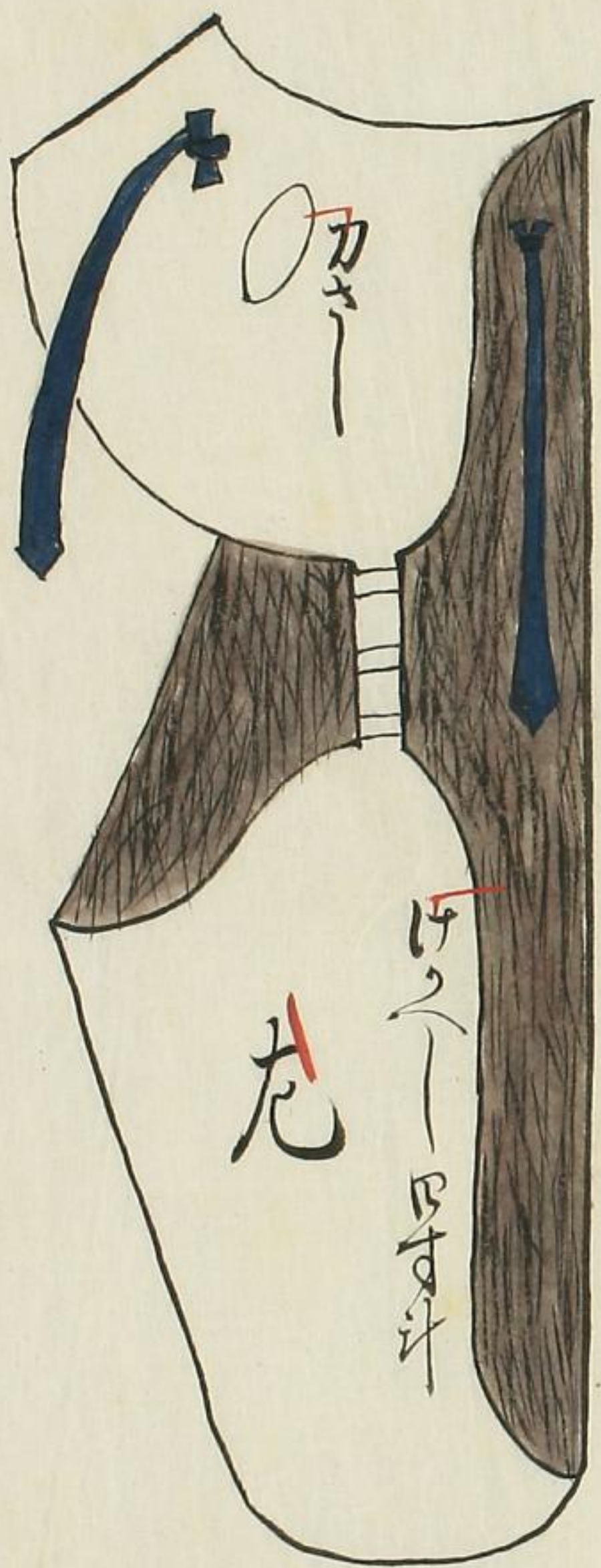


幕月留の如右草三三角
らんがし倍す... 長は四寸
志やうゆるく... してす
ま... 後にもす

行勝の裏に... 帯はゆるく
ゆるくと云ふは... 九寸



思ひ裏
右
小糸と云ふは... ゆるくと云ふは...
半



左

けり一四寸半

以勝す法... 是... 可切

一敷皮の皮麻の秋毛少くす包一

△敷皮之圖



此布の皮分半高蒲^皮又ハ毛皮少ク^シ包一



一敷皮の裏は布と柿^皮深^クつ包一^包

此の蒲^皮半^包に^シ可^ク不^レ半^包也^シ又^シ童^皮

馬^草半^包に^シ可^ク不^レ半^包也^シ若^シ皮^ハ少^クシ^テ包^一

一敷皮は虎豹熊^皮も^シ可^ク不^レ半^包也^シ虎豹の皮^ハ

用^スル^ニハ^シ孫^包也^シ半^包人^可糾^ル也^シ

△弓箆年之圖



後大緒

右之流分流より其不可同也
流、鹿園流殿義滿將軍之流治世訓
法定置之式法也富傳相續之為秘書
同傳師傳之守くお流よりそのかた深
く可秘也

以上二指三ヶ條

右一軸行騰細之法在流宮上之權之
難於未代愚味之子孫荒為るは是
般合難為親子兄弟村術も流家者
相傳也之人傳被成重く者是如所

弘治二年

八月吉日

信豊
画

右一軸武田流の騰細之法唯授人
為秘書云授流月位之令相續畢佳
制之有安子、お流者可有決進之者也仍
如所

糟屋左近

藏
集

右取一書或曰流以携細之法唯授人
為秘書其後海月依之令相續畢佳先
制之有安子亦云其可有必進之者也仍
如海

糟屋左近

武藏 勇

海野仁左衛門

景克 五

久代藤兵衛

信秀 丑

山村五鈴

喜時 丙

多田祥寛

寛政七年己卯十月十五日 陽巻

山村主鈴

喜時

多田祥寛

寛政七年己卯十月十五日

陽巻

各和負茶殿

竹騰書

特別
ケ5
764
20

7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9